

大正13年刊行の『糟屋郡志』を読む(8)

『須恵町誌』から交通に関係した写真のいろいろ

『須恵町誌』(昭和58年)1983年(発行)は町制施行30周年を記念して出版されました。その中から前々回、前回とふれた交通関係の写真を紹介することにします。詳しく知りたい方は『須恵町誌』をご覧ください。役場で購入することもできます。

まいった時の記念写真です。手前の少年は着物に帯、その先には荷車が何台か、二階や屋根の上にも人がいます。たまたま写った電信柱があり、手前から右上に伸びる道が県道で、並行してトロッコの軌道が見えます。もちろん県道を写そうとしたものではありませんが、ある時代の風景が切り取られているところにおもしろさがあります。



写真1 昔の県道(須恵橋から一番田へ抜ける道)石炭運搬用のトロッコ軌道が見える

写真1は須恵駅から踏切を越えて須恵の交差点(須恵橋北側)を過ぎたあたりの風景です(写真右側に川があります)が写っていません。ちょうど新築祝いか何か、お祝いをするために集

この県道は一番田の交差点を過ぎて須恵郵便局の前を通り、上須恵の集落の中を抜けていきます。本来はもっと狭い道だったのが、写真では少し拡張されているように見えます。

上須恵の郵便局前の、道路をはさんだ向かい側、小高い丘の上に須恵村役場がありました。



写真2 旧役場(東干田)前での記念撮影(大正4年)

この役場の前に前回紹介した道路元標がありました。その位置が大正9年(1920年)4月1日福岡県告示に「大字上須恵字東干田464番地先郡道上」と書かれているのは、役場への坂道の登り口に当たる位置で、郡道の上という意味です。その後、この道が県道(佐谷・上亀山停車場線)になったこととなります。村役場は昭和11年に現在のアザレアホールの位置に移転して、道路元標もそこに移されました。

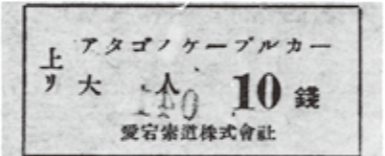
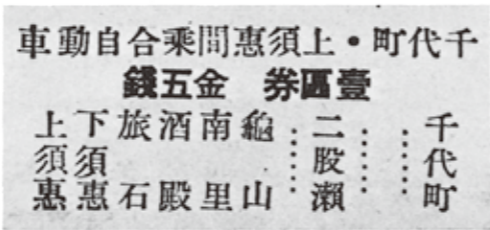


写真3 昔の乗車券のいろいろ(田原武雄氏蔵)

時の記念写真です。役場前の玄関先に当時の有力者たちが盛装して集っています。

この切符で、「回数乗車券券区分」と書かれています。電停は左回りで言うと、天神町→新柳町→博多駅前→千代町→石城町→天神町と、一周します。途中、千代町から吉塚駅前に分岐しています。

今日の博多区祇園交差点付近にあった旧駅です。4枚目は「アタゴケーブルカー」。大人10銭。福岡市西区、愛宕神社のある愛宕山にありました。現地には「愛宕山ケーブルカー跡地」の説明板が建てられています。

結ぶ路線(城南線)も出来ていますが、一丁目で天神町と博多駅前に分かれます。写真4は現在の香椎線にあった本合停留所です。香椎線は当時は博多湾鉄道と言われ、西戸崎と宇美を結んでいました。町内には新原駅・須恵駅・旅石駅がありました。旅石駅は酒殿駅から分岐していた石炭運搬のための路線です。本合停留所は須恵駅と酒殿駅の間、乙植木の町道竣工碑の近くにあったと記録されています。

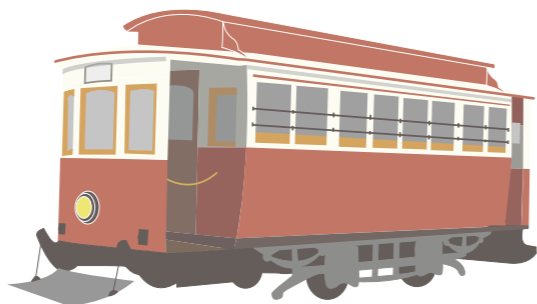


写真3は昔の乗車券です。こういう日々使い捨てられるものが残っているのは珍しく貴重なものです。所有者の田原武雄氏は昭和36年(1961年)から同40年(1965年)まで須恵町の助役を務められました。

3枚目は「回数乗車券券区分」。西新町から呉服町まで直線で進み、その先が医学部前(九州帝国大学医学部)、箱崎、帝大前(九州帝大工学部の手前)が終点です。先の循環線に対し貫線と言われていました。呉服町と医学部前との間で博多駅方向に分岐しています。切符では停車場と書かれています。博多駅のこと

5枚目は市内電車の回数券。帝大前から姪ノ浜までの貫線、天神町(渡辺通)一丁目、博多駅前、千代町、石城町の循環線のほかに、新たに西新町、鳥飼、六本松、平尾(渡辺通)一丁目を



写真4 本合停留所

2枚目は福岡市内の路面電車

まいった時の記念写真です。手前の少年は着物に帯、その先には荷車が何台か、二階や屋根の上にも人がいます。たまたま写った電信柱があり、手前から右上に伸びる道が県道で、並行してトロッコの軌道が見えます。もちろん県道を写そうとしたものではありませんが、ある時代の風景が切り取られているところにおもしろさがあります。

上から1枚目「千代町・上須恵間乗合自動車」。要するにバスで、福岡市博多区千代から二又瀬、志免町の亀山、南里を経て酒殿、旅石、下須恵、上須恵と停車します。